

4. 職員研修

(1) 平成22年度公立大学協会図書館協議会研修会（都留文科大学）

- ① 主催 公立大学協会図書館協議会
- ② 担当 都留文科大学（中部地区）
- ③ 趣旨 大学図書館の当面する諸問題について研修を行い、図書館職員の知識・能力の向上を図る。
- ④ 日時 平成22年9月3日（金）
- ⑤ 会場 都留文科大学附属図書館 4F 学習室
- ⑥ テーマ 「大学教育と図書館 ―学習環境の充実―」
- ⑦ 参加 22大学28名
- ⑧ 日程 講義「言語力を育てる図書館の役割 ―フィンランドより―」
都留文科大学附属図書館長・副学長 福田 誠治 氏

講義「コミュニケーション基盤の充実は学習環境の充実」

都留文科大学地域交流研究センター長・情報センター教授 杉本 光司 氏

講義「学術情報リテラシー教育 ―都留文科大学初年次教育の実践例―」

都留文科大学情報センター講師 日向 良和 氏

⑨ 報告 研修会の内容をとりまとめ、公立大学協会図書館協議会ホームページに掲載

⑩ 研修会決算報告

収入	研修会予算	250,000円
	合計	250,000円

支出	講師講義資料作成・原稿執筆費	15,000円
	講義企画・資料作成	16,632円
	会場（都留文科大学）施設使用料	12,600円
	講師研修会事前打合せ（人件費）	10,000円
	講師研修会当日講師謝礼（人件費）	30,000円
	講師昼食代	3,000円
	講師茶代	570円
	参加者用茶代	5,510円
	合計	93,312円

残高	（返還額）	156,373円
〔残額156,688円－315円（振り込み手数料）〕		

(2) 大学図書館職員長期研修

- ① 主 催 国立大学法人筑波大学
- ② 日 時 平成22年7月5日(月)～7月16日(金)
- ③ 会 場 筑波大学春日地区情報メディアユニオン2階ホール
- ④ 受講者 国立大学ならびに大学共同利用機関法人31名、公立大学1名、私立大学4名、計36名
- ⑤ 研修報告

平成22年度 大学図書館職員長期研修参加報告

滋賀県立大学 図書館情報センター 三浦 寛二

平成22年7月5日～16日の間、筑波大学春日地区情報メディアユニオンを主会場に平成22年度(第42期)大学図書館職員長期研修が開催され、図書館マネジメント総論8科目、学術情報流通等各論13科目、演習・班別討論等の各科目を受講した。詳細な講義資料は下記ホームページを参照して頂くとして、ここでは印象に残った講義の概要とその感想を述べる。

<図書館マネジメント総論>

- ・「大学経営の課題」：大学は国際化や教育力の向上など、発展の余地が大きい。大学図書館はその中核を担う施設である。しかし日本は今後GDPの増加は見込めず、高齢化に伴い支出は増加する。そのため、大学を含め既存の施設は改革を行い、経費を削る必要がある。今後大学図書館を充実させるには、職員自ら改革案を提案する必要がある。
- ・「大学評価と大学図書館」：学校教育法に基づき、大学には認証評価および国立大学法人評価が必要となった。また、2011年より大学情報データベースの公開が義務化された。大学図書館でも数値の把握・公表のほか、資料等の整備方針を設定する必要がある。

図書館職員の研修であるが、上記2科目では大学の現状や大学職員として必要な知識を得ることができた。今後の大学図書館、更に大学の発展には職員自らの積極的な企画や提案が欠かせず、そのための企画力やプレゼンテーション力の向上が必要であると感じた。

<学術情報流通等各論>

- ・「学術コミュニケーションの動向」：電子ジャーナルのパッケージ購入の普及により、ILL件数の減少が続いている。またこの数年でe-bookが急速に普及するなど、従来の大学図書館モデルが崩れている。EJを含め外国雑誌の購読は円高で救われているが、いつか払えなくなる恐怖が常にある。海外の大手出版社は資料の電子化と共に研究者紹介などによる「大学そのもののコンサルティング」を目指しており、海外の動向には引き続き注目する必要がある。また、学習支援を積極的に進めると、今後は図書館職員が教員の役割を担う、との指摘があった。
- ・「大学図書館の学習支援」：図書館のこれまでの活動は図書館のみの局地戦では、との反省から、ラーニングコモンズの整備と、教育との連携を同時に実施した。ラーニングコモンズの整備では、場の整備だけでなく学習効果を産み出すことを重視し、ディスカッションやプレゼンテーションに繋げることを目標とした。教育との連携では、学生の学習方法の把握から始め、FD研修(大学教員

の教育能力研修)でも図書館の使い方や情報検索の研修を行った。

- ・「企業の経営戦略」：博報堂社員が講師となり、マーケティングの手法について講義を受けた。情報を伝えたい相手には、他人ごとではなく「自分ごと」として伝えることや、生活者と企業が共有する価値・テーマを作り出すことで販売を図るなど、企業が販売する上で活用している事例を学んだ。プレゼンテーション時のスライドについても、時折画面一杯の大きな文字や、文章を縦書にしたスライドを混ぜるなど、見せる工夫が随所に感じられた。

これらの講義は、大学図書館の現状や諸問題のほか、今後の実務に役立つ企画力やプレゼンテーション手法を学ぶ講義であった。最新の情報を収集し提供することが大学図書館職員の基本的な役割だが、利用者や大学の上層部に図書館の役割や重要性を伝えることも必要である。また今後、大学図書館員が教員の役割を担う可能性を考えると、大学図書館職員は学生への指導力を向上させることも必要ではないかと感じた。

<問題発見・解決演習、班別討議> 1週目と2週目で異なるメンバーによる班別討議を行った。

1週目の問題発見・解決演習では、職場での困りごとをピックアップし、解決策を探る演習を行った。ここでは問題が発生した際、まず解決の優先順位をつけることや、問題解決では予算・人手・設備を変えることは難しいため、他の点で変えてゆく必要があること、固定化を招かないために毎日わずかでも変化することが大切であることを学んだ。

2週目の班別討議は、具体的な問題を設定し班別に討議したうえで、各班の解決策をプレゼンテーションする演習を行った。私の班は設置母体が国公立全ての形態の大学図書館職員がいることから、「開館時間の延長と図書館新戦略」をテーマに自由に討議し、大学図書館の地域や卒業生への開放や、学生と社会人との交流を図ること、社会人院生向けのワンランク上のサービスを展開することなどを提案した。各班とも工夫のあるプレゼンテーションであり、「聞かせる」ことや「見せる」点について参考になった。

長期研修では充実した講義内容とともに、全国の大学図書館職員と連日情報交換することで、設置母体や規模の異なる図書館でも課題や悩みは共通であることや、小規模大学でも実現可能なことが数多くあることを知ることができた。また、情報の収集や問題の解決のために、図書館職員の横のつながりが大切であることを改めて感じた。会場の筑波大学はTXの開通により交通が便利になったこともあり、今後もぜひ公立大学図書館協議会として長期研修に参加する機会を与え続けて頂きたいと思っています。

最後になりましたが、長期研修に参加する機会を与えてくださった公立大学図書館協議会に心よりお礼申し上げます。また、研修期間中の業務をサポートしてくださった職場の皆様に感謝します。

講義資料掲載ホームページ <http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/pub/choken/2010/text2010.html>